

同窓会報

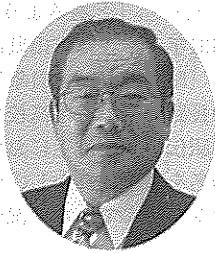
第59号

平成23年8月21日発行

富山県立上市高等学校同窓会



学校風景



観光元年

同窓会長 伊東尚志

常日頃から同窓会活動に温かいご理解とご協力をいただいておりますこと、心より感謝申し上げますと共に同窓会員の皆様にはますますご壮健でご活躍のことをご推奨いたします。

昨年は、創立90周年の節目の年でしたが、皆様ご支援の下、記念式典、記念公演など記念事業を成功させることができました。また、同時に実施しました募金活動に多くの方々よりご賛同いただき誠にありがとうございます。在校生は学業に部活動に、元気ががんばっております。また、環境エコ、地域社会奉仕活動にも活発に参

加しており、ご安心ください。

上市町では、今年を「観光元年」とし、雄大で荘厳な剱岳、大岩山目石寺や曹洞宗眼目山立山寺の静寂さなど、町には都会に住む人を魅了するたくさんの魅力があります。これらの資源を活用し、多くの皆さんのアイデアとご協力をいただきながら、町の宝を活かす観光振興に取り組んでまいりたいと考えています。

同窓会員各位には、母校の町、上市町の観光振興にご理解とご協力を賜りますと共に皆様方の限らないご活躍を祈念してご挨拶といたします。



劔岳への思い

校長 國香正稔

快晴の休日、のんびり馬場島まで車を走らせた。劔岳の登山基地、日本中、世界中から登山家が訪れる場所へ、眺めに誘われて、片道、小一時間のドライブであった。カーブが続くが、姿を現すたびに劔岳の形は変化していく。やがて、ノコギリの歯のようなギザギザがくっきり見えるようになり、手を伸ばせば届きそうなくらい、はっきり、間近に迫ってくる。圧倒的な存在感である。後日、校長室の本棚に、佐伯邦夫さん（S31.3卒）の写真集「劔岳湯仰」が仕舞われてあるのに気がついた。12年前、八十周年記念に生徒・参加者に贈呈されたものである。カメラに収められた劔岳からも存在感がほとばしっている。

地層・岩石などを専門に学んだため、つい、これは花崗岩の山だと余計なことも考えてしまう。岩石の黒さと硬さが花崗岩らしくないために、閃緑岩あるいは斑禰岩だと誤解されており、インターネットには、まだそう記

されたままの情報も出ている。信州大学の原山智教授の研究により、花崗岩が、下から来たマグマの熱で焼かれて、黒く硬くなっていることがわかった。周囲の山も花崗岩が多いが、焼かれていないのでやわらかく、山肌も白く、おだやかな姿をしている。劔岳だけ、ひと手間加わったが故に、この黒く険しい、存在感に満ちた山容になったわけである。

校舎本館の階段は、3階から2階へ降りるときに、大きな窓の向こうに劔岳が見えるようにしつらえてある。他には、本館・南館渡り廊下の窓も、絶好の劔岳展望ポイントである。そして、白竜橋や東橋からは上市川に沿って、さえぎるものなく望むことができる。どちらかという、東橋からの劔が好きである。日頃、困った状態に追い込まれたときでも、目を閉じて劔岳を想えば、不思議と心が落ち着く。いわば、心の山、「父かと思ふ」山になっている。「湯迎」をひも解くと「仏道を深く信仰すること」と記されている。佐伯さんのような城には達しないまでも、心から仰ぎ見るとでもいうような、上市高校に在籍したものが共有する、劔岳への思いがあると感じている。



伝統のマラソン大会

副校長 伊井朋幸

赴任から4ヶ月、6月に行いました本校の伝統行事の一つ「マラソン大会」について、大会のルーツを探るとともに今年の大会の様子を紹介します。

今年で57回を数える本校のマラソン大会、第1回大会は1956年、昭和31年であります。この年は、本校生徒会・機関誌「劔嶺」が発刊された年でもあります。その創刊号の生徒会長「回顧」の中に、マラソン大会のはじまりが記されてあります。

～「十一月になって本部では、持久力、忍耐力養成を主目的に会員全部の校内マラソン大会を計画し、議会に提案したところ一気に否決されそうになったが強行に推進した結果、個人的にはもち論、議会や先生の間にも相当非難の声を耳にしたが、いざ蓋をあけてみると流石長距離レースには輝かしい伝統を誇る本校だけに、男子1万、女子4千のコースだったが参加者は殆んど全員に及び直接の推奨者として極めてうれしく思った。」～

半世紀に渡り引き継がれてきている本校のマラソン大会の産声をあげた瞬間がここに記されています。この文

面の「流石長距離レースに・・・。」とあるように、マラソン大会がはじまった昭和31年、本校は富山県高校駅伝大会において3回目の優勝（昭和28、29、31年）を果たしています。また、個人の長距離走でも県高校新記録を設立するなど、この時代、駅伝・長距離走において輝かしい成績により「上高」の名を県下に轟かし、学校全体としても血気盛んにマラソンに挑んでいた状況が目に見えます。

今年の大会のスタート地点は丸山運動公園。公園までの往復6kmは徒歩、マラソンの距離は男子7km、女子3.5km。本大会の目的は「自らの体力を知り、忍耐力を養う。」とあるように、第1回大会発祥時の心意気が大事に引き継がれています。4月当初から生徒個人の持久力強化として、体育授業時の「チャイムスタート」による距離走の反復練習を積み重ねてきました。

大会当日にはコース全体に教職員が配置するとともに、ゴール手前の最後の坂道にはPTA保護者による給水場を設置するなど、全員が最後まで粘り強く力を発揮出来るよう支援し、それに対し生徒もしっかりと答えた走りをしてくれました。今回のマラソン大会で特に誇れることは、大会当日の欠席が全校で3名のみであったことです。「上高生」全員参加による第57回大会を行うことが出来たことを、同窓会の方々に報告いたします。